

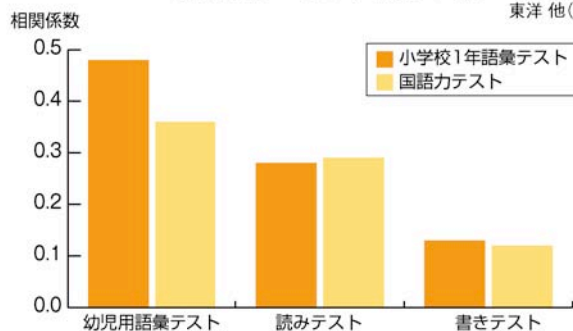
遊ぶ、話す、読み聞かせ—子どものために 時間を割く努力が、認知発達・社会的適応に影響

【これまでの研究から分かること】

(ア) 母親の暖かく受容的な態度が子どもの発達に良い影響をもたらす。

- ・子どもと過ごせる時間が短くても、一緒に遊び、会話し、絵本を読み聞かせるなど親子の心込めての関わり合いがあるなら、子どもの認知発達や社会性の発達は促される。
- ・命令口調で知識や言葉を教え込もうとすると、子どもの関心や集中力を損なわせてしまう。
- ・幼児期に漢字教育を受けても、小学校では教育の効果は消えてしまう。

—200の文字を教えるよりも100の「なんだろ？」育てたい
幼児用各テストと小学校での各テストとの相関
東洋 他(1995)



(イ) 父親、祖父母、社会の支えを実感している母親は子育てバーンアウト(燃え尽き症候群)にかかりにくく、ゆとりある子育てをしている傾向がある。

- ・ゆとりある子育ては3歳代の言語発達にも好ましい影響を与えている。



◆ 母も父も子育てを楽しめるよう、家族で過ごす時間を取り戻そう。幼い子どもを持つ父母の就労形態を変え、フレックスタイムや在宅勤務など多様な働き方を社会全体で整備し、支えることが大事である。

子育て中の家族を社会全体で支えよう
—ゆとりある「待ちの子育て」が子どもを伸ばす—

内田 伸子(お茶の水女子大学副学長)

